

# 支線水路

LATERAL

3万ha余の愛知用水受益地の全域にわたって張りめぐらされる支線水路網は、総延長1,200kmに達する。1,200kmといえば、東京から博多辺に達するほどの距離である。

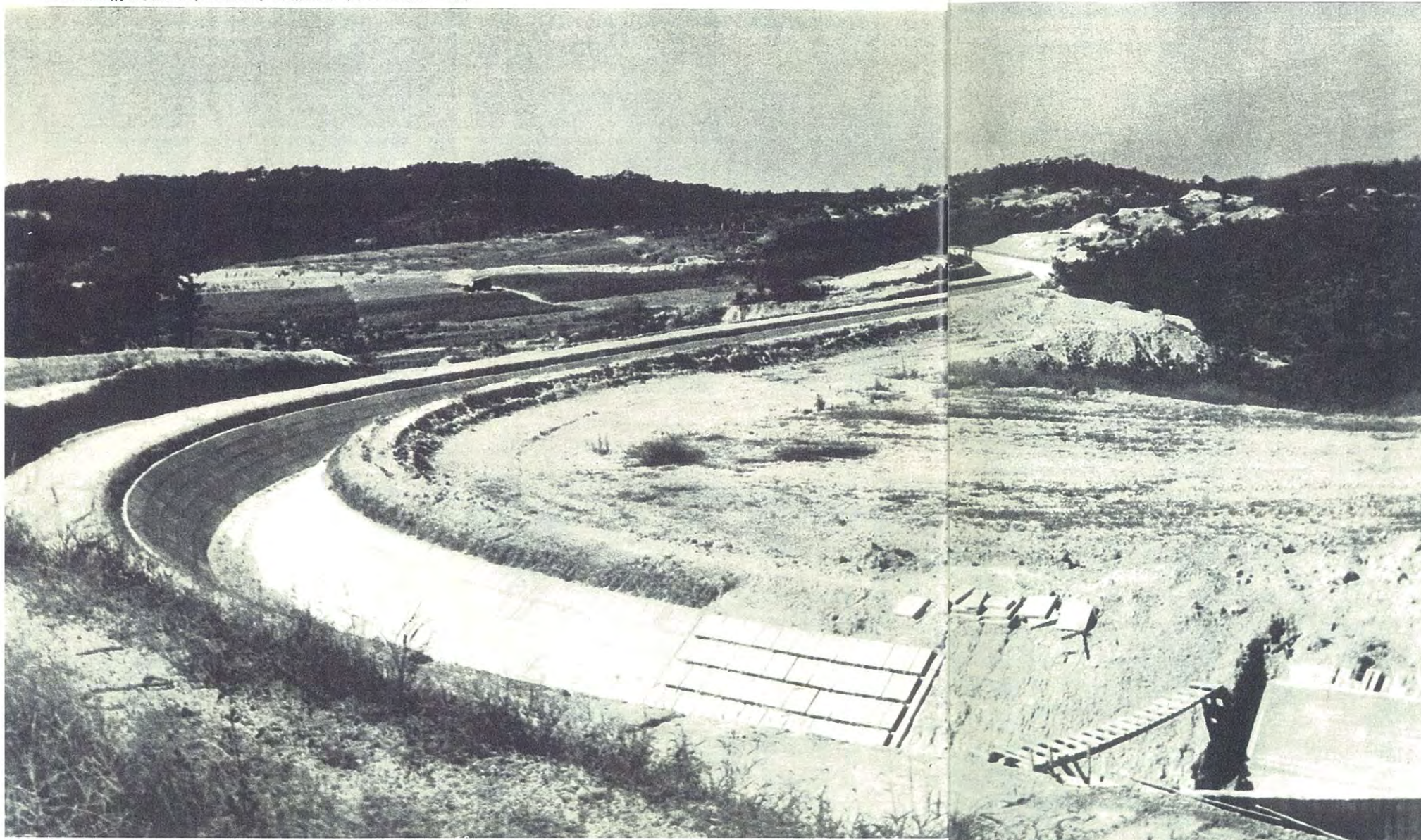
幹線同様、支線工事の内容もバラエティに富んでおり、その工種別延長をみると、開水路297km、管水路734km、トンネル25km、サイホン85km、暗渠17kmその他となっているが、ほかにポンプ場164カ所と落差工・水路橋などの構造物が約24,000カ所というぼう大な数に達する。

また支線工事は支配面積による施行区分に従って、公団直接施行分(93km)、岐阜県委託施行分(34km)、愛知県委託施行分(1,068km)と分けて施行しているが、いずれも明36年春までに完成する予定で、基幹工事と末端工事の同時完成という愛知用水事業の大きな特色がここに達成されるわけである。

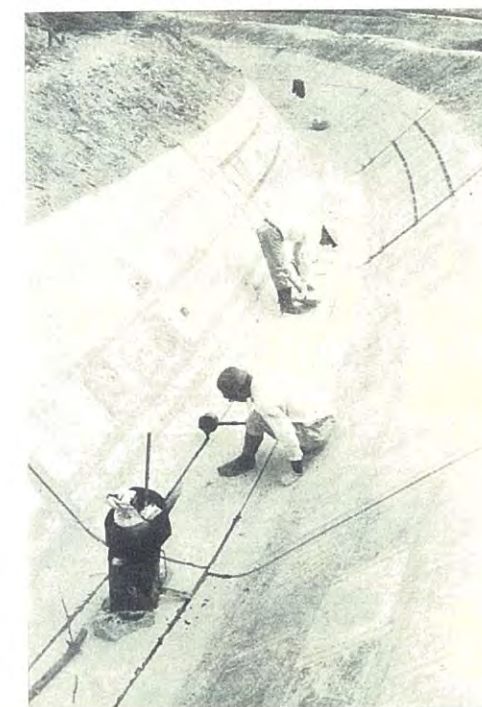


サイホン工事

全地域を網の目のおおう支線水路（半田支線の一部）



ブロック工の支線水路（ジョイント施工中のところ）





■ 東浦開墾地区 ■



■ 緑が丘開墾地区 ■



愛知用水における開墾事業の全計画面積は 1,578ha、このうち公団で直接施行する分は 652ha、愛知県に委託施行する分は 926haとなっている。35年3月末の実績は約 500haであるが、目下各地区で最も新しい工法の開墾工事が各種の開墾機械を駆使して進められている。公団施行の代表的な開墾実施地区には、緑が丘、小牧、東浦などがある。



■ 小牧開墾地区(コンターテラス) ■





## 耕地整備

UPLAND  
READJUSTMENT



愛知用水事業の重要な特色の一つである大規模畑地かんがいは、計画面積1万ha余に達するが、いうまでもなく畑地かんがいの効果は耕地整備（区画整理）を実施しなければ100%に発揮することはできない。

愛知用水土地改良区と可児土地改良区では、公団の委託を受け7億円余の資金で、34年度から80工区の耕地整備事業を実施しているが、用水の到来をいよいよ明年にひかえて、各工区の工事は地元関係者の努力で活発に進展している。（写真はいずれも阿久比町板山工区の工事状況、下の写真に見える水路は東浦支線）